



集え、子どもたち! 子育て

小松島市では、子育て世代に選ばれるまちをめざして、「子育て世代応援プロジェクト」を令和4年度から展開しています。今回は、5月、6月に開催された子育て世代向けのイベントを紹介します。



中山市長

徳島県で一番子育てしやすいまちをめざして、令和4年度から「子育て世代応援プロジェクト」を始めました。私自身も子育て経験者として、一番大切なことは子どもとのスキンシップや話をする時間を作ることだと思っています。プロジェクトでは、今回のような親子で参加できるイベント開催や小中学生へのキャリア教育事業のほかに、子育てに関する相談体制の充実もその一つとして展開しています。本市では、子育て中の皆さまの心の拠り所として、保健師さんや助産師さんなどに妊娠から就学前まで途切れることなく相談できる体制を整えていますので、子育てのプロからのアドバイスをしっかり活用していただいて、上手に子どもさんとの大切な時間を紡いでもらいたいです。

そして、子育て世代のみならず、すべての世代の方々から満足のお声を聴かせていただけるよう、これからもまちづくりに取り組んでまいります。

5/28



5月28日、「こまつしま消防あそび2023」が開催され、昨年より4組多い36組の親子が参加しました。「消防あそび」の目玉は、市内小学校に通学する1年生から3年生を対象に、消防士の仕事が体験できるイベント「こども消防士体験」です。「ロープ渡り体験」「はしご車搭乗体験」「放水体験」「救急体験」「煙・消火器体験」などがあり、消防士の仕事や緊急時の対処方法などをわかりやすく伝えるために、担当の消防職員は実演したり、補助したりしながら工夫をして説明をしていました。

参加者からは「はしご車に乗るのは2回目、とても楽しみにしていた。」「ロープ渡りは腕が疲れたけど楽しかった。」などの声が聞かれました。

小笠消防長は「仕事を知ってもらい、消防士に興味を持ってもらうことができれば幸い。何よりも、家族で参加してもらい、AEDの使用法や心肺蘇生訓練を一緒にしてもらうことで、緊急事態に直面した時の落ち着いた行動や、防災意識の向上、啓発にもつながったのではないかと思います。」と振り返りました。



消防士になって9年、市民の皆さまからの感謝の言葉をやりがいに、火災や救助、救急、様々な現場で活動しています。

「消防あそび」では放水体験の担当で、防火服への早着替えを皆さんに披露しました。消防士は出勤の際に、活動服の上から防火服などの装備(約20kg)を装着し現場に臨みます。正確に装着しないと命に係わるので毎回真剣勝負です。今回は、素早い装着技術をお見せすることが目的でしたが、思いがけず、子ども消防隊の声援をもらい、とても励みになりましたし、いきいきした子どもたちの顔を見ることができてとてもうれしく思いました。

消防士は市民から助けを求められる存在です。参加してくれた子どもたちには、普段から人を助けられる、特に自分の身近な人を助けられる人に成長してほしいと思います。



高垣消防副士長